「咬合三角」の提唱者が贈る,欠損歯列の見方の決定版
「欠損歯列の臨床評価と処置方針」から13年. 欠損補綴の嚆矢による待望の書!

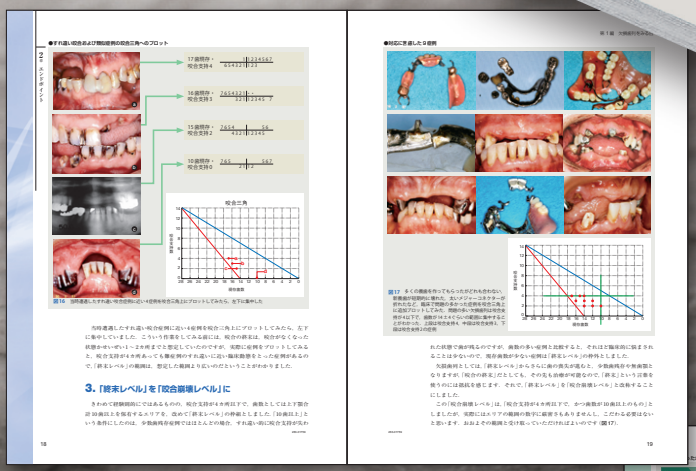
症例でみる
欠損歯列・欠損補綴
レベル・パターン・スピード

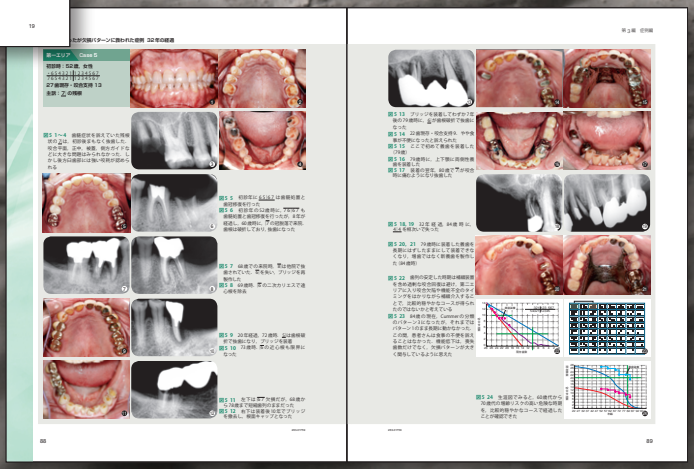
宮地 建夫　著

欠損歯列を理解し,的確な治療を行うために必読の1冊です

欠損歯列の治療には，まずは正しい診断が必要です．過剰な先回りの治療をしないことにも注意すべきですが，手遅れになってもならず，それを正しく読み取らなくてはなりません．

◆**第1編**では，目前の患者さんが，欠損歯列のどのレベルにあるのか，そして咬合再建の必要があるのかを読みとる力を学んでください．
◆**第2編**は欠損補綴です．臼歯部での咬合支持が上顎前歯部を守れているかどうかがポイントです．インプラントを利用する場合にも，こうした原則を踏まえて咬合再建を図るべきでしょう．
◆**第3編**では，咬合欠損，咬合欠陥，咬合崩壊，咬合消失の4つのエリアの長期症例で，診断と処置方針の実際を示します．
◆**第4編**では，著者の考想から生まれた咬合三角，歯の生涯図，Cummer の分類，MOu などについてわかりやすく解説してあります．





■A4判変型・140頁・オールカラー
■定価 12,600円(本体12,000円+税5%)
ISBN978-4-263-44336-1

CONTENTS

第1編　欠損歯列をみる目
第2編　欠損補綴をみる目
第3編　症例編
第4編　用語解説―その原則と意味―

医歯薬出版株式会社
〒113-8612　東京都文京区本駒込 1-7-10
TEL.03-5395-7630　FAX.03-5395-7633
http://www.ishiyaku.co.jp/

症例でみる 欠損歯列・欠損補綴 レベル・パターン・スピード　CONTENTS

第1編　欠損歯列をみる目

1章 欠損歯列をみるということ
1. 欠損歯列と欠損補綴を分けて考える
2. 欠損歯列の病態は咬合の損傷
3. 欠損歯列は連続した継続疾患
4. 重症化の防止
5. 欠損歯列は慢性疾患タイプ

2章 エンドポイント
1. 咬合の坂道と咬合三角
2. 欠損歯列の終末／10歯現存以上で咬合支持4以下
3. 「終末レベル」を「咬合崩壊レベル」に
4. 臨床疫学と臨床実感

3章 第二エリア・咬合欠陥レベル
1. 第二エリア・咬合欠陥レベルの定義
2. 咬合欠陥と重症化
3. 咬合欠陥の評価法－その1／Eichner の分類と臼歯部の咬合支持数
   ① Eichner の分類
   ② MOu とOUs
   ③ 咬合欠陥の把握
4. 咬合欠陥の評価法－その2 ／上顎前歯部のダメージ
5. 咬合欠陥と前歯の喪失リスク
6. 咬合欠陥の評価手順／咬合支持8の2症例

4章 欠損パターン
1. 咬合欠陥と欠損パターン
2. 上顎臼歯欠損パターン／歯の消失のスピードが速い
3. 下顎臼歯欠損パターン

5章 欠損進行のコース
1. 咬合崩壊のパターンとコース
2. 避けたいコースと許せるコース
3. コースを読むための3 つの指標／咬合三角・歯の生涯図・欠損パターン
4. ナチュラルヒストリー

第2編　欠損補綴をみる目

1章 咬合再建
1. 咬合再建と機能回復の違い
2. 咬合再建の効果
3. 咬合再建と受圧条件
4. 咬合再建と欠損パターン
5. 前歯を守る／一次固定と二次固定
6. タイプA 義歯

2章 欠損補綴とリスク
1. 欠損補綴のリスクとは
2. 中間欠損症例の経過
3. 片側遊離端欠損症例の経過
4. 顎堤条件と経過
5. 両側性遊離端欠損症例の経過
6. トラブルのチェックポイント

3章 短縮歯列
1. 咬合の安定と患者の不便さ
2. 臨床疫学と臨床での傾向
3. 短縮歯列症例の長期経過

4章 コースコントロール
1. 長期経過とそのコース
2. いくつかのコース
3. コースと臨床対応
4. 終末像とコースコントロール
5. コース変更の可能性
6. コースコントロールの指標

5章 欠損歯列の診断から欠損補綴への手順
1. 難症例の特徴と評価手順
2. 第一評価基準
3. 第二評価基準
4. 第三評価基準と評価手順

第3編　症例編

1章 第一エリア・咬合欠損レベルの症例
1. 第一エリア・咬合欠損レベルの特徴（健全歯列を含む）
2. 症例の概要
   ① 歯冠修復と再修復によって欠損歯列を免れた症例／30年の経過
   ② 増齢リスクを乗り越えた安定歯列／32年の経過
   ③ 延長ブリッジと短縮歯列での対応／38年の経過
   ④ 繰り返しの再修復で欠損拡大を防いだ症例／35年の経過
   ⑤ 8臼歯を失ったが欠損パターンに救われた症例／32年の経過

2章 第二エリア・咬合欠陥レベルの症例
1. 第二エリア・咬合欠陥レベルの特徴
2. 症例の概要
   ① 最少の支台歯数で咬合再建を試みた症例／30年の経過
   ② 二次固定による上顎前歯の保護を目論んだ症例／31年の経過
   ③ 離れ一歯から両側遊離端欠損に移行し支台歯を増員した症例／28年の経過
   ④ 上下顎のバランスが悪い歯列で二次固定効果を期待した症例／27年の経過
   ⑤ 咬合欠陥歯列でも欠損パターンに恵まれた症例／34年の経過

3章 第三エリア・咬合崩壊レベルの症例
1. 第三エリア・咬合崩壊レベルの特徴
2. 症例の概要
   ① 咬合崩壊レベルを見逃し過剰な咬合回復をしてしまった症例／37年の経過
   ② 左右的なすれ違い咬合状態に悩まされた症例／6年の経過
   ③ 第三エリア内にあっても受圧条件のよさに救われた症例／24年の経過

4章 第四エリア・咬合消失レベルの症例
1. 第四エリア・咬合消失レベルの特徴
2. 症例の概要
   ① 加圧因子が少なく穏やかな経過をたどった症例／26年の経過
   ② 下顎の四隅に配置された少数歯残存症例／19年の経過
   ③ 上顎4 前歯が残った少数歯残存症例／20年の経過
   ④ すれ違い咬合状態を示す少数歯残存症例／22年の経過

第4編　用語解説―その原則と意味―

1章 欠損様式の診査の原則
1. 現存歯数
2. 咬合支持数
3. 受圧条件
4. 加圧因子
5. 欠損パターン

2章 欠損様式の意味
1. 現存歯数と年齢
2. 咬合支持数と現存歯数
3. 受圧条件と欠損補綴
4. 離れ一歯と評価
5. 加圧因子と咬合支持
6. 剪断加圧と咬合回復

3 章 レベル・パターン・スピード
1. 欠損歯列とレベル／Eichner・MOu・OUs
2. 欠損歯列のエリア／咬合三角
3. 欠損歯列の進行スピード／歯の生涯図
4. 上下顎の歯数のインバランス／上減の歯列
5. Eichner の分類とコース
6. コースコントロール
7. 欠損歯列のための語句／筆者の使い方
8. 今後の課題

Column 1　咬合三角
Column 2　Eichner の分類
Column 3　Occlusal Units：OUs
Column 4　歯の生涯図
Column 5　Cummer の分類
Column 6　Kennedy の分類
Column 7　欠損補綴で得られるものと負担するもの
Column 8　すれ違い咬合

医歯薬出版　ご注文承り書

症例でみる 欠損歯列・欠損補綴 レベル・パターン・スピード（　　）冊　（　　）（　　）冊
（　　）（　　）冊　（　　）（　　）冊

☐ ご指定納入店〔　　〕（納入店ご指定の場合手数料はかかりません）　☐ 直送希望（一回の発送につき手数料400円が別途かかります）

●お名前　　●TEL

●ご住所（〒　　―　　）

★必要事項をご記入の上，**FAX. 03-5395-7633** にご送信ください．★弊社ホームページ http://www.ishiyaku.co.jp/からもお申し込みいただけます．

医歯薬出版株式会社　〒113-8612　東京都文京区本駒込1-7-10　TEL.03-5395-7630

2011年5月パンフレット作成